

国産稲わらの利用の促進について

現状

- ア 飼料用稲わらのうち、国産稲わらが約 9 割を占めています。
一方、国産稲わらは約 9 0 0 万トン生産されているが、飼料用は約 1 割にとどまっており、約 7 割はすき込み等に利用されています。
- イ 中国産稲わらについては、加熱処理が不十分な事例が摘発されたこと等により、平成 1 7 年 5 月 2 7 日以降輸入停止措置がとられていたが、一定条件下で加熱処理された飼料用稲わらについて、1 9 年 8 月 8 日に輸入停止措置が解除されました。
安定的で、安全・安心な我が国の畜産経営を確立するためには、国産稲わらの飼料利用を拡大し、輸入稲わらに依存しない体制の確立が重要です。
- ウ このため、稲わらの収集等機械施設の整備、収集作業の受託組織及び長期契約による安定的な稲わら収集供給組織の育成等を推進しているところです。
- エ しかしながら、今なお、稲わらが輸入されている現状を鑑みれば、国産稲わらが不足しているものと思われます。

対応をお願いしたい事項

< 今からできること >

市町村、J A、普及指導センター等を中心に、以下の取組をお願いします。

- ・ 畜産農家が求める稲わらの量を把握。
 - ・ 稲わらを提供できる稲作農家の把握。
 - ・ 必要な機械の導入、斡旋。
 - ・ 稲わら収集に係る労力の斡旋（コントラクターの紹介等）。
- ） 両者のマッチング

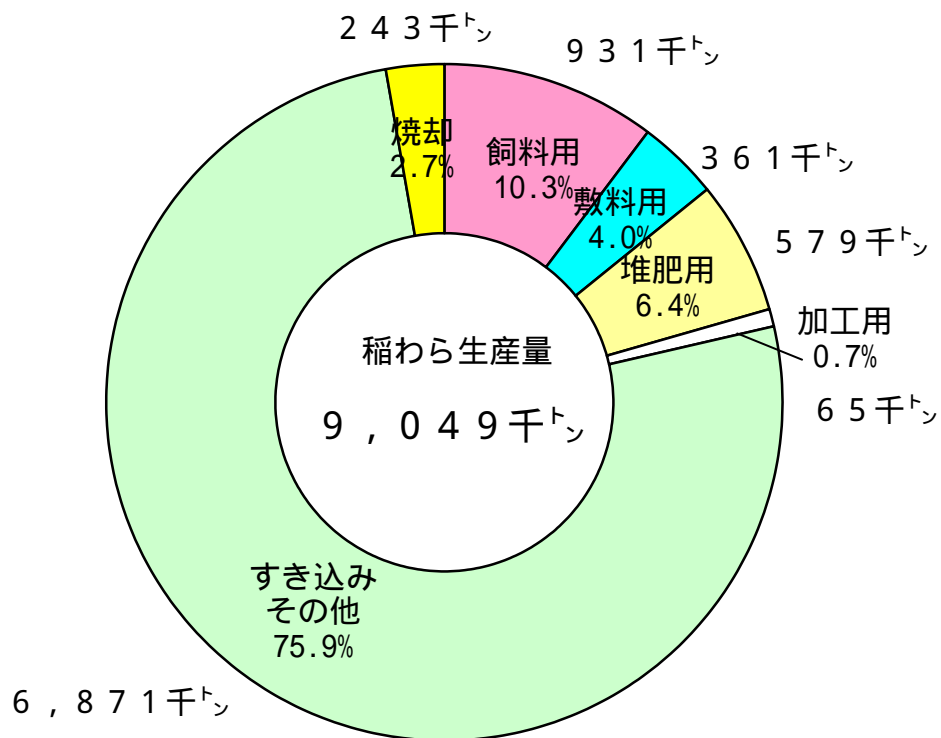
< 2 1 年度に向けて検討いただきたいこと >

- ・ 国産粗飼料の広域流通に対する新たな対策^(注)を予算要求中であるため、今年は近くに稲わらの提供可能な農家がない等により、十分な量の稲わらを確認できなかった地域は、隣接する市町村等から確保することも含めて、次年度に向けた調整・検討をお願いします。

注：国産粗飼料増産対策事業のうち「粗飼料広域流通促進対策型」

(参考)

国産稻わらの用途別利用状況(平成18年産)



飼料用稲わら需給の推移

(単位:千ト)

区分	稲わら 生産量	飼料 仕向量	飼料 利用率 = /	輸入量	飼料 需要量 = +	自給率 /
昭和55年産	11,659	1,855	15.9%	48	1,903	97.5%
平成 2年産	10,119	1,646	16.3%	181	1,827	90.1%
7年産	10,309	1,343	13.0%	223	1,566	85.8%
8年産	10,236	1,305	12.7%	264	1,569	83.2%
9年産	9,364	1,267	13.5%	243	1,510	83.9%
10年産	9,007	1,071	11.9%	197	1,268	84.5%
11年産	9,090	1,044	11.5%	299	1,343	77.7%
12年産	9,417	1,085	11.5%	230	1,314	82.6%
13年産	9,057	1,100	12.1%	141	1,240	88.7%
14年産	9,026	1,077	11.9%	103	1,181	91.2%
15年産	8,714	1,011	11.6%	179	1,190	85.0%
16年産	9,017	924	10.2%	147	1,071	86.3%
17年産	9,290	1,077	11.6%	12	1,089	98.9%
18年産	9,049	931	10.3%	20	951	97.9%

注: 輸入稲わらは、こも・むしろ等加工品を含む。